台湾旅行の印象

広島大学マスターズ会員　高田　忠彦

広島大学マスターズ企画のグループ研修旅行 “台湾の歴史と文化を訪ねて”（平成 27 年 7 月 12 日～15 日）に夫婦で参加した。出発の 3 週間前に右目、2 週間前に左目と白内障の手術をしたので、目薬が離せない旅であったが、広島からのフライトが若干遅れたこと、旅行第２日目の朝、スコール（？）に見舞われたことを除けば、快適な旅だったと言えよう。

台北空港到着後、スケジュールに従って、台北駅から台湾高速鉄道（日本の新幹線）に乗車し、高雄市に行き、名所・旧跡の見学が始まった。往復した台北市から高雄市まで、車窓から眺めた風景は、緑が多く、日本的でもあったが、時おり見られたヤシの木、ブーゲンビリアは南国のそれを思わせた。

高雄市では澄清湖、蓮池潭(写真１)、壽山公園、台南市ではオランダ人に築かれた赤嵌樓、オランダを駆逐した鄭成功を祀った延平郡王祠、日本人技師八田與一氏が建設に関与した烏山頭水庫を見学した。それぞれ、台湾の歴史の重みを感じさせた。その後、再び、高速鉄道で台北市に移動し、龍山寺、中正記念堂、士林官邸などを回った。台湾は日本が統治した時代もあり、日本から近い国でもあるにも関わらず、台湾の歴史や文化を殆ど知らなかったが、今回の研修旅行を通じて、台湾の美しい景色や台湾の古い歴史を見聞することが出来、非常に良い勉強になった。また、旅行最終日に見学した故宮博物館は見学者が多いのに驚いた。収集物は 70 万点にも及ぶと言う。有名な “翠玉白菜”、“肉形石”は、意外と小さく期待に反したが、本物に近い色彩は、“素晴らしい”の一言に尽きる。多くの人達が、これら２つの作品に興味を持ち、見学する理由がわかった気がした。また、“快雪時晴帖”は書家王羲之の名蹟であるが、高校時代、書道の先生から聞いたことがあるなじみのある書家であり、そのころの事を思い出した。

写真１　蓮池潭

今回の研修旅行では多くの名所・旧跡を回った。後から思うと、もう少し、予備知識をもって、見学すれば良かったと思う。しかし、その中で、猛暑の中、一糸乱れず、整然と行われた忠烈祠の衛兵交代式（写真２）は、犠牲者に対する鎮魂の気持ちが込められているためか、印象的であったが、辛亥革命や戦争で多くの犠牲となった数10万の将兵が祀られているという背景を考えると、日本も関係してきただけに非常に複雑な気持ちにもなった。これ以上、忠烈祠に新たな将兵が祀られないように平和な台湾であることを心から願った次第である。

写真２　忠烈祠の衛兵交代式

台湾に関する歴史や日本との関わりは、中国文化大学の黄准教授や日本統治体験者の方からもいろいろお話しを聞かせていただいた。現在の台湾は、経済的にもかなり発展した国に位置づけられているが、政治的には複雑な国でもある。

全体的にみれば、早足の短期間の旅行であった。素通りしたという気がしないでもなかったが、台湾で有名なアンバサダーホテル（高雄市）、グランドホテル（台北市）などに宿泊し、北京料理、四川料理、台湾料理、飲茶料理などの中華料理を味わったことも思い出に残った。有益で実のある研修旅行にするために、綿密なる計画を立てられた幹事の皆様方に心から感謝を表し、今回の台湾研修旅行の印象記にしたいと思う。